

2013/10/30

第15回図書館総合展

JMOOCと放大MOOC

放送大学教育支援センター

山田 恒夫

tsyamada@ouj.ac.jp



AXIES 大学ICT推進協議会



GLOBE

JOCW
JAPAN OCW CONSORTIUM

公開大学

- ◆ 公開大学 (Open University)
- ◆ 日本では
放送大学 (OUJ)
名称変更は英語のみ
生涯学習機関としての位置づけ
「いつでも、どこでも、だれでも」
入口は易く出口は難い

MOOC

Massive	大規模（数万－十数万）
Open	公開
Online	オンライン（遠隔）
Course	教材配信でなく授業、単位や学位も

ScalableなLMSだけでは不十分
他に何が必要？

MOOCsの発展段階

回答

- 1) 新しいOERの1つ
- 2) オープン教育の新たなモデル
公開大学にとっては十分な脅威
- 3) 高等教育の新たなモデル
高等教育は「大学」の独占ではなくなる

MOOCsの発展段階

段階	高等教育におけるインパクト	指標 (例、脱落率)	触媒
Stage 1: 新型OER	限定的 教育の質の改善の手段	80-90% 以上	反転授業 双方向性
Stage 2: オープン教育の新たなモデル	公開大学（通信制大学）にとって十分な脅威	通信制大学 並み	
Stage 3: 高等教育・生涯学習の新たなモデル	伝統的な大学モデルに並立する高等教育・生涯学習モデル （高等教育は「大学」の独占物ではなくなる）	通学制大学 並み	コース認証

コース認証：米国における 高等教育機関認証機関(CHEA)の議論

Inside **ACCREDITATION** *with the President of CHEA*

Volume 9, Number 1, November 7, 2012

MOOCs and Accreditation: Focus on the Quality of "Direct-to-Students" Education

Judith S. Eaton

We are again talking about innovation in higher education and it is a refreshing change. The most conspicuous, challenging and controversial subject of these discussions is MOOCs—massive open online courses. MOOCs such as Coursera, Udacity and edX, all launched in early 2012, have received extensive media coverage accompanied by a lot of commentary. What type of education is offered here? Will it last? How do we judge its quality? Is there a role for accreditation?

MOOCs: "Direct-to-Students" Education

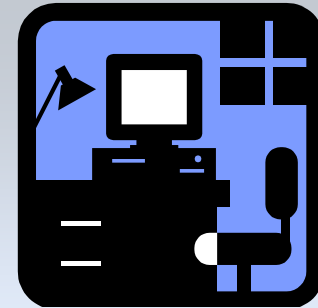
MOOCs are a form of direct-to-students education: Students do not need to enroll in a college or university; offerings are available on-demand to anyone. Students do not need to become involved in a federal or state student assistance program, paying little (even as compared to lower-cost community college tuition) or nothing for the offerings. Students are not bound by an academic calendar with semesters or courses and they are not part of a

反転授業 Flipped Classroom

従来型授業

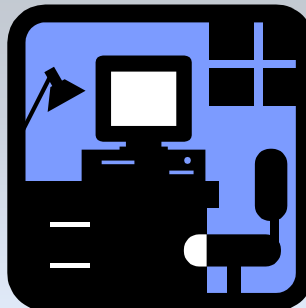


講義・演習



予習・復習

反転授業



講義・コースウェア



演習・発展学習

MOOCとOCWの相違

[OCW] 授業資料(授業映像を含む)など教育コンテンツの公開(配信)

[MOOC] 教育そのものの公開

- ◆ 教育効果(質)の保証
- ◆ インタラクティブな指導
 - 誰が？(教員/TA/ピア/機械)
- ◆ 評価と認定
 - 誰が？(教員/プロバイダー/第3者機関)

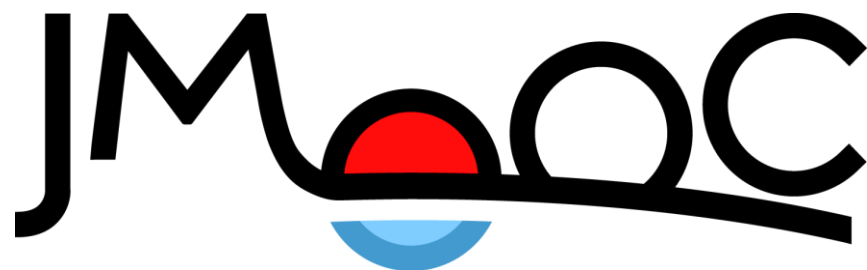
MOOCとオンライン教育との相違

[既存のオンライン教育]

遠隔大学等が提供、ただし、公開ではなく、従来の遠隔(通信)教育の延長

[MOOC]

- ◆ 大規模であるため、指導や修了認定に新たな仕組みが必要
- ◆ (少なくとも一部は無償で) 公開するため、新たなビジネスモデルが必要
- ◆ LMSのscalabilityの問題ではない



JMOCの組織と活動について

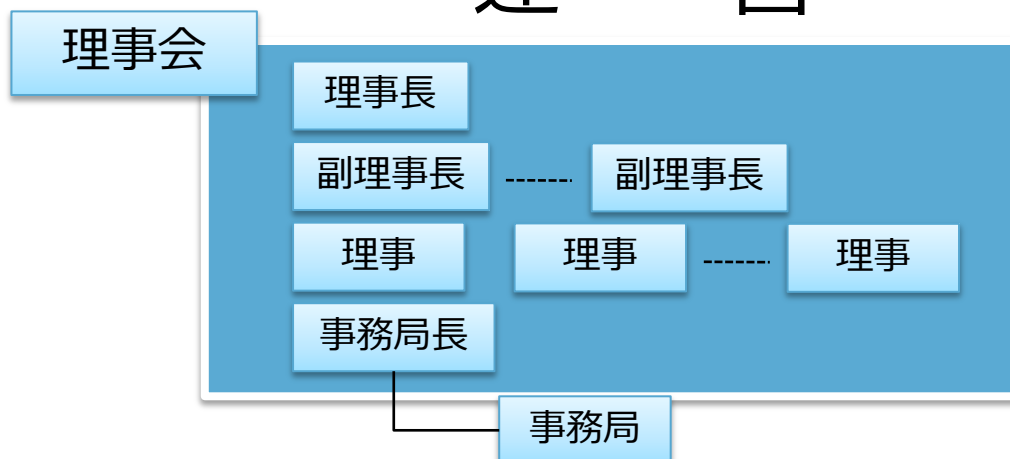
- 日本人による日本とアジアのための
「**学びによる個人の価値を社会全体の共有価値へ
拡大するM00C**」
の実現を産学の連携によって強力に牽引します。
- 大学にとってのM00C
 - 反転学習の活用などによる効果の高い教育への転換
 - アジアを中心とした日本をより深く理解してもらえ
る留学生の増加
- 企業にとってのM00C
 - 効果的・効率的な人材育成／任用／採用手段
 - アジアを中心とした優秀な人材の確保

JMOOCの組織



- 形態： 一般社団法人（非営利）
- 登記： 本日の設立総会を受け、11/1設立予定
- 時限運営： 5年間の時限法人として設立
3年目に5年以降の存続可否の中間
判断を第3者による評価により実施
- 財政基盤： 会員の大学、企業、団体からの
会費を基盤とし、目的達成毎に
公的助成に応募

運 営



役 員				
	氏名	所属	職位	JM00Cでの職位
役員	白井 克彦	放送大学学園	理事長（早稲田大学学事顧問）	理事長
	安西 祐一郎	日本学術振興会	理事長（慶應義塾大学学事顧問）	副理事長
	安浦 寛人	大学ICT推進協議会	会長（九州大学理事・副学長）	副理事長
	（未定）	経済団体から		副理事長
	伊東 千秋	富士通	特命顧問（元副会長）	理事
	岡部 洋一	放送大学	学長	理事
	岸田 徹	ネットラーニング	代表取締役会長	理事
	阪井 和男	明治大学	法学部教授	理事
	内藤 達次郎	住友商事	理事	理事
	中山 俊樹	NTTドコモ	執行役員	理事
	深澤 良彰	早稲田大学	理事	理事
	美濃 導彦	大学ICT推進協議会	副会長（京都大学情報環境機構・機構長）	理事
	向殿 政男	私立大学情報教育協会	会長	理事
	村井 純	慶應義塾大学	教授（環境情報学部長）	理事
	福原 美三	明治大学	特任教授	事務局長

会 員



会員

正会員

正会員

大学（主要大学）、企業（50社目標）：
会費 10万円/年・口、5口以上

特別会員

特別会員

グローバル大企業（5社目標）：
会費 500万円/年・口

協賛会員

協賛会員

非営利団体、教育機関、学会など：
会費 2万円/年・口、5口以上

個人会員

個人会員

教員、研究者、一般社会人：
会費 1万円/年

会員一覧(2013. 10. 8現在)



	会社名	状況
特別会員	(株) NTTドコモ	特別会員として参加
	(株) ネットラーニング	特別会員として参加
	住友商事 (株)	特別会員として参加
正会員	富士通 (株)	特別会員として参加
	大手前大学	正会員として参加
	ビジネス・ブレークスルー大学	正会員として参加
	文化学園	正会員として参加
	放送大学	正会員として参加
	明治大学	正会員として参加
	国立情報学研究所	正会員として参加
	(株) インターネットイニシアティブ	正会員として参加
	(株) 内田洋行	正会員として参加
	(株) NHKエデュケーショナル	正会員として参加
	NTTラーニングシステムズ (株)	正会員として参加
	(株) 学研ホールディングス	正会員として参加
	キャストリア (株)	正会員として参加
	大日本印刷 (株)	正会員として参加
	(株) デジタル・ナレッジ	正会員として参加
	(株) 東洋経済新報社	正会員として参加
	(株) ナガセ	正会員として参加
	(株) 日経BP	正会員として参加
	(株) 富士通ラーニングメディア	正会員として参加
	(株) プロシーズ	正会員として参加
	(株) ベネッセコーポレーション	正会員として参加
	(株) WARK	正会員として参加

	会社名	状況
協賛会員	高度映像情報センター (AVCC)	協賛会員として参加
	CIEC(コンピュータ利用教育学会)	協賛会員として参加
	実務能力検定機構	検討中
	私立大学協会	検討中
	私立大学情報教育協会	協賛会員として参加
	私立大学連盟	検討中
	大学ICT推進協議会	協賛会員として参加
	日本電子出版協会	協賛会員として参加

大学については、各関連団体からご説明
賛助会員としてのご協力を御願いした。

各大学については、11/1正式発足後
にご説明、入会をお願いしたい。

活 動 (1)



- 教員推薦
 - 内外の学習者から期待される教員/コースを推薦し、オンライン講座の提供を支援
- 開講時期： 2014年春より順次

JMOC推薦教員リスト		
大学名	講師名	専門領域
大阪大学	狩野裕教授	統計学・データ分析
九州大学	井上仁准教授	コンピュータサイエンス
京都大学	(選定中)	
慶應義塾大学	村井純教授	コンピュータサイエンス
国際教養大学	ダレン・J・アシュモア准教授	日本研究
東京大学	本郷和人教授	歴史学
広島大学	安武公一 講師	経済・金融
文化学園	複数の教員による	文化と服飾の歴史
放送大学	山田恒夫教授 + (国際交流基金)	教育・社会系心理学
北海道大学	重田勝介准教授	教育
明治大学	森川嘉一郎准教授	サブカルチャー論
早稲田大学	田中愛治安教授	政治過程論

活動 (2)

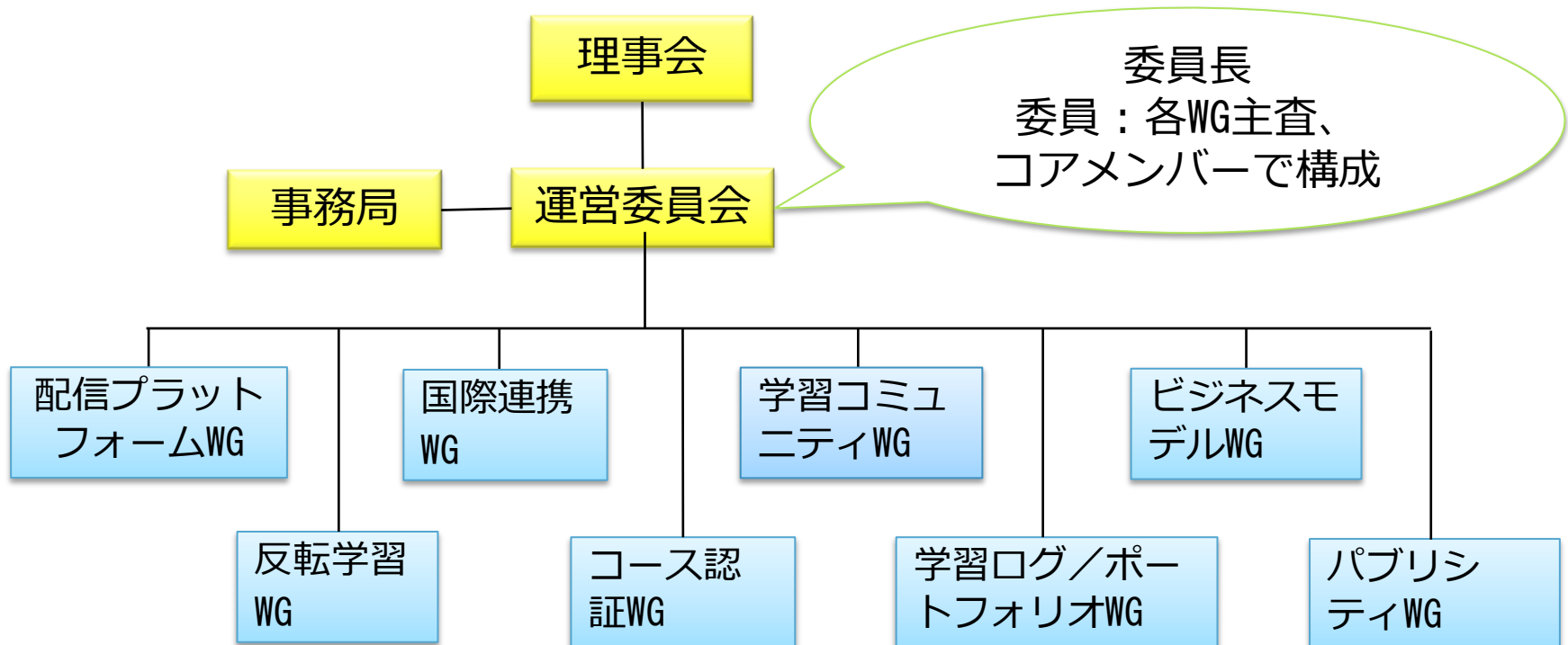


- MOOCおよびその活用に関する普及活動
 - Webサイト www.jmooc.jp
 - facebookページ 近日開設予定
 - 講演会、国際会議の開催
 - 11/19 JMOC設立総会および講演会
 - 1月頃 JMOC新春講演会
 - 3月頃 JMOC開講講演会
 - 来春以降国際シンポジウム等

活動 (3)



- 技術・制度・政策・組織などに関する検討
- 会員企業／大学からの委員により各課題を検討し、結果を運営委員会を通じ共有可



放送大MOOC

- ◆ 2014年4月開講予定
- ◆ プラットフォーム：
 - ◆ Advanced/multimedia e-textbook
 - ◆ iBook/ePub3.0
- ◆ Backend LMS
 - ◆ Moodle
- ◆ Big Data/Learning Analytics
 - ◆ 未定
- ◆ 留学生向け渡日前・直後日本語講座(国際交流基金日本語国際センターとの共同)

日本版MOOCの目的

- ◆ 大学の事業は、本質・核心的部分でないところから、アウトソース化・オープン化
- ◆ 研究大学： 研究＞教育
- ◆ 教育大学： 学生指導＞コンテンツ

1) 対面授業の質の改善

反転授業、教科書のコースウェア化

2) オンラインコースの質の改善

Personalization

3) 新たな学びの場の提供

産学連携、日本からのコンテンツ発信強化、

日本版MOOCの特徴

- ◆ 日本語版プラットフォーム(将来的には多言語化)
- ◆ 北米系の後追いでない基本概念
 - ◆ 中規模でもOK
 - ◆ Open/Proprietary Content/Serviceの可能な混在
 - ◆ 多様なMOOCプラットフォームの許容
 - ◆ 少額予算
 - ◆ コミュニティ共有・協働型も
- ◆ JMOOCにおける共同と競争

「日本の状況にあった、しかし国際通用性のあるMOOC」